

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	後期	担当教員 齋藤 悠里			
授業科目名 精神医学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

臨床心理士であり、精神科デイケア職員、リワークグループ運営者、自殺防止相談員としての経験がある講師である。理学療法士として、必要とされる精神疾患全般について学ぶ。教授者が実際に精神科クリニックや業務内で接した精神疾患の患者さんの様々なケースや症状によりリアルな臨床像を伝え、それぞれの精神疾患について理解が深まるように指導する

〔到達目標〕

理学療法士が臨床の場面で、精神疾患を同時に罹患している患者さんに施術するときに、その精神状態を知っていることは重要である。どのような精神疾患の可能性があり、その精神状態を区別できるようにする。

〔使用教材、参考文献等〕

学生のための精神医学
初めての精神医学

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	精神医学についての歴史と身体医学との違いを概説し精神医学の概念、及び精神医学面接法と診断の過程について学ぶ	精神医学と身体医学の違いを説明でき、精神医学の面接法と診断過程を定義できる。
2	認知症の分類とそれぞれの原因について学ぶ	認知症のそれぞれの疾患の原因と症状を区別できる
3	てんかんの分類と症状、及び依存症の分類と離脱症状を学ぶ	てんかんの種類による症状を区別でき、依存症の説明が出来る
4	統合失調症についてのケースの紹介を通して、疾患イメージを定着させる。症状による分類の理解。	統合失調症の疾患について説明でき、症状による分類が出来る
5	様々な気分障害の症状及び治療法について学ぶ	様々な気分障害を区別でき、それぞれの症状を説明できる
6	様々な神経症障害の症状及び治療法について学ぶ	それぞれの神経症障害を説明でき、症状から定義できる
7	摂食障害などの生理的障害について、その症状と治療法について学ぶ	摂食障害や睡眠障害について、症状と治療法について説明できる
8	中間テスト	テストにより効果測定を行う。
9	11種類のパーソナリティ障害、それぞれの特徴と対処法について学ぶ	それぞれのパーソナリティ障害について、区別ができ、それぞれの障害について説明が出来る
10	児童期に注目される発達心理学と発達障害について学ぶ	発達段階について区別でき、発達障害について説明できる
11	思春期・青年期に注目される特徴と精神障害について学ぶ	思春期以降に起きる精神疾患について詳しく説明できる
12	高齢者の特徴と高齢者の精神障害について学ぶ 精神障害における薬物療法について学ぶ	高齢者の心理状態と特徴的な精神疾患について説明できる。様々な精神疾患における薬物療法の説明が出来る
13	事例を通して、アセスメントの方法について学ぶ	様々な精神疾患の特徴を理解し、症状から病名を推測することができる。
14	期末テスト	テストにより効果測定を行う。
15	期末テスト解説 精神医学総復習	習得できていないところを把握し、理解度を深める。 精神医学の知見を日常・治療に役立てられる

〔成績評価について〕

評価については、中間テスト(40%)、期末テスト(40%)と小テスト10回(計20%)の合計により評価する。評価は、学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業前に参考文献の該当項目を予習すること。
授業後にホームワークを課すため、次回授業日までに自分の力で課題に取り組むこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
小児科学									中館 尚也
〔授業の学習内容と心構え〕 小児科学では、小児疾患の原因・病態の講義と、小児の受胎から思春期に至る身体、言語、精神の成長発達段階の理解を通じ、小児の特徴及び疾患の理解を図る。									
〔到達目標〕 理学療法士として必要な小児疾患の基本的知識を修得し、生涯に亘って小児のリハビリテーションに応用して実践できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学」富田豊 編集、医学書院									
回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)							
1	1章:小児科学概論	小児科学の特徴、小児の成長・発達、栄養・摂食、保健に関する内容を理解できる。							
2	2章:診断と治療の概論 3章:新生児・未熟児疾患	小児科の診断と検査と治療法に関する内容、新生児・未熟児の疾患に関する内容を理解できる。							
3	4章:先天異常と遺伝病+小テスト①(1~2回目)	先天性疾患、遺伝病に関する内容を理解できる。							
4	5章:神経・筋・運動器疾患①	小児における神経疾患の診断や検査、疾患の特徴を理解できる(中枢神経疾患)。							
5	5章:神経・筋・運動器疾患②	小児における神経疾患の診断や検査、疾患の特徴を理解できる(てんかん・発達遅滞・発達障害)。							
6	5章:神経・筋・運動器疾患③ 6章:発達障害とその周辺疾患	小児における神経疾患の診断や検査、疾患の特徴を理解できる(筋ジストロフィー)。発達障害、骨関節疾患を理解する。							
7	8章:循環器疾患	心血管系の発生と体外循環への適応、小児における循環器疾患の症状、検査、特徴を理解できる。							
8	9章:呼吸器疾患+小テスト②(3~7回目)	小児における呼吸器疾患の症状、検査、特徴を理解できる。							
9	10章:感染症	小児における感染症の症状、診断、治療を理解できる。各年代での代表的疾患を理解する。							
10	11章:消化器疾患 12章:内分泌・代謝	消化管の発生、機能的発達、症状、小児における消化器疾患を理解する。小児における内分泌疾患、糖代謝を理解する。							
11	13章:血液疾患+小テスト③(8~10回目)	小児の血液疾患を理解する。							
12	14章:免疫・アレルギー疾患、膠原病	小児の免疫システム、アレルギーに関する疾患を理解する。							
13	15章:腎・泌尿器・生殖器疾患 16章:腫瘍性疾患	小児の腎・泌尿器疾患を理解する。小児の悪性腫瘍発生頻度、疾患の特徴を理解する。							
14	17章:習癖・睡眠関連病態・心身 18章:重症心身障害児 19章:眼科 20章:耳鼻科 21章:児童虐待・事故	小児の習癖、睡眠関連の病態、心身医学的疾患、重症心身障害児、眼科・耳鼻科の代表的疾患、児童虐待を理解する。							
15	期末テスト+授業振り返り	テストにより効果判定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
〔成績評価について〕 小テスト(20点×3回)+期末テスト(40点)=100点満点で評価する。					〔特記事項・授業時間外における学習〕 事前に教科書当該部を熟読し、医学用語を理解しておく必要がある。講師による重要箇所は講義中に強調し説明があるので各自で記述等を行い復習すること。授業は教科書に沿って行われるため、毎授業において重要事項は下線を引いたり、メモをとること。				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
老年学									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 高齢者を取り囲む社会的問題、加齢変化に伴い罹患しやすい疾病について学習していく									
〔到達目標〕 高齢者の身体的・心理的な加齢的变化や社会的問題を説明できるようになる 高齢者が罹患しやすい疾病について説明できるようになる									
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 老年学									
回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)							
1	オリエンテーション 老年学とは	老年学の概念を理解、高齢者を取り囲む社会について説明が出来るようになる							
2	老化と加齢変化① —老化の機序、生理機能の加齢変化	老化の機序・生理機能の加齢変化が説明できる							
3	老化と加齢変化② —運動機能、精神心理面の加齢変化	運動機能、精神心理面の加齢変化を説明できる							
4	高齢者の機能評価① —総合的機能評価、日常生活活動の評価や測定方法	日常生活活動(ADLなど)の評価や測定方法を説明できる							
5	高齢者の機能評価② —障害老人の日常生活自立度の評価	日常生活活動(ADLなど)の評価や測定方法を説明できる							
6	高齢者の機能評価③ —フレイル・サルコペニアについて	フレイル・サルコペニアについて説明できる。 高齢者の機能評価についての内容を説明できる							
7	中間試験	第1～6講義の内容を理解し、説明ができる							
8	老年症候群 —老年症候群の概念、各症状の理解	老年症候群の概念、各種障害を説明できる							
9	高齢者に多い疾病 —循環器	循環器疾患における病態を説明できる							
10	高齢者に多い疾病 —呼吸器	呼吸器疾患における病態を説明できる							
11	高齢者に多い疾患 —糖尿病	糖尿病における病態を説明できる							
12	高齢者に多い疾病 —泌尿器	泌尿器疾患における病態を説明できる							
13	高齢者に多い疾病 —慢性疼痛	慢性疼痛における病態を説明できる							
14	期末試験	第8～13講義の内容を理解し、説明ができる							
15	高齢者に多い疾病 —脳血管	脳血管における病態を説明できる							
〔成績評価について〕 中間試験30% 期末試験30% 小テスト40%で59%以下を不合格とする。 ※小テスト:各講義内で実施。講義内容を復習する内容					〔特記事項・授業時間外における学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。 講義では、加齢変化に伴う身体的・社会的な変化について説明していく				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	画像診断学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
渡辺 寛										

〔授業の学習内容と心構え〕

リハビリテーション病院の医師による理学療法士がリハビリテーションを行なうために必要な画像の評価、治療機器について学習する。特に理学療法士は医師の指示のもとによる医療行為が法律上定められており医師と同じ視点で画像診断も診られるようになってほしい。

〔到達目標〕

- ・疾患に即した画像の評価について診られるようになる
- ・画像診断で医師からどのような指示が出て理解できるようになる

〔使用教材、参考文献等〕

- ・授業時配布資料

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	リハビリテーションに必要な評価機器について1	それぞれの機器について、名称と使用用途目的・対象疾患を理解できる
2	リハビリテーションに必要な評価機器について2	それぞれの機器について、名称と使用用途目的・対象疾患を理解できる
3	リハビリテーションに必要な評価機器について3	それぞれの機器について、名称と使用用途目的・対象疾患を理解できる
4	画像診断総論1	画像診断に用いられる機器の種類・評価方法について理解できる
5	画像診断総論2	画像診断に用いられる機器の種類・評価方法について理解できる
6	画像診断各論・頭部外傷1	画像診断による頭部外傷を診られるようになる
7	画像診断各論・頭部外傷2	画像診断による頭部外傷を診られるようになる
8	画像診断各論・頸部	画像診断による頸部を診られるようになる
9	画像診断各論・くも膜下出血	画像診断によるくも膜下出血を診られるようになる
10	画像診断各論・脳出血	画像診断による脳出血を診られるようになる
11	画像診断各論・脳梗塞	画像診断による脳梗塞を診られるようになる
12	画像診断各論・脳腫瘍	画像診断による脳腫瘍を診られるようになる
13	画像診断各論・胸部	画像診断による腰部を診られるようになる
14	画像診断各論・腹部腰部	画像診断による腹部腰部を診られるようになる
15	期末テスト 解説	試験・解説を通じて理解度を確認する。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験小テスト30点と期末テスト70点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

普段から時事問題に関心を持ちながら理学療法士としての役割の広さを考えながら参加すること。毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	前期	担当教員 松田 輝洋			
授業科目名 リハビリテーション医学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

臨床、地域リハビリテーション支援事業などに携わる理学療法士による講義で、疾病や外傷から派生する障害を正しく理解し、的確に障害へのリハビリテーションアプローチを選択できるようになるため、必ず復習をすること。

〔到達目標〕

医療・介護について我が国の現状と制度を理解する。
リハビリテーション医学の対象である疾患から派生する障害を理解する。その障害に対するリハビリテーションアプローチを理解する。

〔使用教材、参考文献等〕

リハビリテーション医学〔羊土社〕、配布資料

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション・リハビリテーション医学・医療の概要	国の現状を知る、障害、地域包括ケアシステム、介護保険など
2	リハビリテーション医学予防・廃用症候群	廃用症候群がリハビリテーション医療において重要視されている理由を理解できる。
3	リハビリテーション医学Frailty	Frailty, Sarcopenia, Locomotive syndromeが理解できる。
4	リハビリテーション医学エネルギー代謝	無酸素性エネルギー代謝、有酸素性エネルギー代謝が理解できる。
5	リハビリテーション医学エネルギー代謝	ケトン体 筋線維
6	リハビリテーション医学栄養	リハビリテーション栄養について理解できる
7	リハビリテーション医学疾患脳神経	脳神経12対を理解できる。
8	中間確認テスト、解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	リハビリテーション医学疾患慢性腎臓病(CKD)	腎機能、糖尿病、透析治療、リハビリテーションが理解できる。
10	リハビリテーション医学疾患慢性腎臓病(CKD)	腎機能、糖尿病、透析治療、リハビリテーションが理解できる。
11	リハビリテーション医学疾患各論姿勢・歩行	抗重力姿勢や歩行周期が理解できる。
12	リハビリテーション医学薬理学	リハビリテーション薬理学について理解できる
13	リハビリテーション医学薬理学	リハビリテーション薬理学について理解できる
14	リハビリテーション医学疾患各論がん	良性腫瘍と悪性腫瘍の違い、がん患者に対するリハビリテーションを理解できる。
15	期末テスト、解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

中間試験50% 期末試験50%で総得点60%以上を合格とする。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名 保健医療福祉論	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
	山本 敏之							

[授業の学習内容と心構え]

①医療・福祉・介護業務における、行政と法的制度との関わりを理解する、②制度内での多職種連携と理学療法業務を理解する、③地域リハビリテーションの概要を理解する
 生活期の病院や施設にて実務経験の有する理学療法士の教員が授業を実施する。

[到達目標]

- ①社会保険・医療保険制度を理解する
- ②介護保険領域を中心とした地域リハビリテーションにおける関連法規とシステムを理解する。
- ③障がい者(児)の自立支援・就労支援について理学療法士の役割を理解する

[使用教材、参考文献等]

配布資料

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション・保健医療福祉論の概要	本科目の評定方法を理解する。 今後の授業の展開を理解する。
2	医療・福祉・介護業務における、行政と法的制度との関わり	医療・福祉・介護業務に関わる、行政と法的制度を理解する。
3	社会保険・医療保険・介護保険制度に関して	社会保険・医療保険・介護保険制度を知り、理学療法士の業務との関わりを理解する。
4	地域リハビリテーションと多職種連携に関して	多職種連携に関する理解を深め、地域リハビリテーションとの関わりを理解する。
5	地域包括ケアシステムについて	地域包括ケアシステムの内容を理解する。
6	障がい者(児)の自立支援、就労支援について	障がい者(児)の自立支援、就労支援に関する制度や方法について理解する。
7	公衆衛生に関して(国家試験内容を踏まえて)	公衆衛生に関する知識を深め理解する。
8	期末試験	第1～7回の講義内容の理解度を認識する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

[成績評価について]

記述式試験を行い、学則に準じて評価する

[特記事項・授業時間外における学習]

授業後には授業内容を復習すること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員		堀内 秀憲	
授業科目名	スポーツリハビリテーション論		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

理学療法士として急性期病院、整形外科クリニック、老人保健施設、訪問看護ステーションで勤務した経験を持ち、スポーツ選手に対する理学療法を行っている担当者が、スポーツリハビリテーションを実施していくなかで必要と考えられる基礎的な内容について授業を行う。また、目指す職種の様々な分野に共通し、必要になる知識でもあるため、積み重ねることで将来につながることを意識しながら受講してほしい。

〔到達目標〕

順調な復帰のために組織の強度と組織への負荷の関係を理解できる。各組織のヒーリングプロセスを理解できる。様々な組織の修復にかかる期間が異なることが理解できる。各組織の強度を上げるための刺激の入れ方と時期を理解できる。競技を分析し、治療からパフォーマンスアップのためのトレーニングプログラム作成を通してスポーツリハビリテーションの全体像を考えられる。

〔使用教材、参考文献等〕

軟部組織損傷・障害のリハビリテーション
その他は必要があれば配布する。

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 競技分析およびトレーニングプログラム作成の考え方	競技分析のやり方を知り、トレーニングプログラム作成の方法を知る
2	組織の損傷と鑑別、修復過程、修復期間①	順調な復帰のために組織の強度と組織への負荷の関係を理解できる。各組織のヒーリングプロセスを理解できる。様々な組織の修復にかかる期間が異なることが理解できる。各組織の強度を上げるための刺激の入れ方と時期を理解できる。
3	組織の損傷と鑑別、修復過程、修復期間②	順調な復帰のために組織の強度と組織への負荷の関係を理解できる。各組織のヒーリングプロセスを理解できる。様々な組織の修復にかかる期間が異なることが理解できる。各組織の強度を上げるための刺激の入れ方と時期を理解できる。
4	競技分析、トレーニングプログラム作成①	ある競技の競技分析、トップスピードアップのためのトレーニングプログラム作成を通してパフォーマンスアップに関わるエネルギー供給系を含め、パフォーマンスアップに関わる要素を理解できる。
5	競技分析、トレーニングプログラム作成②	陸上競技(短距離)のパフォーマンスアップに向け、競技動作自体を使ったトレーニング、競技動作に近い動作を使ったトレーニングを作成することができる。
6	トレーニングプログラム作成③	ある競技の加速力Upのための目的の動作自体を使ったトレーニング、目的の動作に近い動作を使ったトレーニングを作成することができる。
7	トレーニングプログラム作成④	ある競技の加速力Upのための目的の動作自体を使ったトレーニング、目的の動作に近い動作を使ったトレーニングを作成することができる。
8	トレーニングプログラム作成⑤	ある競技の加速力Upのためのトレーニングに必要な多関節の筋力増強訓練、単関節の筋力増強訓練を作成することができる。
9	トレーニングプログラム作成⑥	ある競技の加速力Upのためのトレーニングに必要な多関節の筋力増強訓練、単関節の筋力増強訓練を作成することができる。
10	競技分析と治療・トレーニングプログラム作成①	特定の傷害、特定の競技を分析し、治療からパフォーマンスアップのためのトレーニングプログラム作成を通してスポーツリハビリテーションの全体像を考えられる。
11	競技分析と治療・トレーニングプログラム作成②	特定の傷害、特定の競技を分析し、治療からパフォーマンスアップのためのトレーニングプログラム作成を通してスポーツリハビリテーションの全体像を考えられる。
12	競技分析と治療・トレーニングプログラム作成③	特定の傷害、特定の競技を分析し、治療からパフォーマンスアップのためのトレーニングプログラム作成を通してスポーツリハビリテーションの全体像を考えられる。
13	競技分析と治療・トレーニングプログラム作成④	特定の傷害、特定の競技を分析し、治療からパフォーマンスアップのためのトレーニングプログラム作成を通してスポーツリハビリテーションの全体像を考えられる。
14	運動学習における注意点	運動学習における注意点を知ることができる
15	期末試験、解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

評価はノートPC等のデバイスを使用した多肢選択式試験(中間)記述試験(期末)で実施する。中間レポート(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

特記事項
実習室のベッド等で実際に動作し確認する時間があるので、様々な姿勢や動作に耐えられる輻輳で参加すること。

授業時間外における学習について
基本的には事前学習として各単元に関する内容の構造について調べてくること
事後学習としては板書や配布資料等をもとに理解を深め、説明できるようにすること

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員					
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	田中 信一、山本 敏之、繁森 将太	
[授業の学習内容と心構え]を具体的に記載する)											
理学療法に関わる評価について実技を主として反復実践する。評価場面における思考の慣れを企図する。加えて、技術の確実な修得を目指す。また、実技実践のみならず、他学生の実践場면을観察・分析することで、自身の学びとする。											
[到達目標]											
①模擬患者に対して、リスクに配慮した行動をとることができる。 ②模擬患者に対して、正確な検査測定を実施することができる。 ③検査結果を報告し、質問に対して自分の考えを述べることができる。											
[使用教材、参考文献等]											
教科書:リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社、理学療法評価学 第6版補訂版 金原出版株式会社 プリント:一年、二年次の評価学系の授業で配布されたもの											
回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)									
1	オリエンテーション、情報共有(寝返り、移乗)	実技実践およびその観察を通し、自身の不足している技術および能力を把握することができる。									
2	情報共有(ROM手順)	実技実践およびその観察を通し、自身の不足している技術および能力を把握することができる。									
3	情報共有(MMT手順)	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。									
4	医療面接・情報収集	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。									
5	寝返り、移乗、疼痛評価	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。									
6	バイタルチェック、四肢長、周径	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。									
7	BRS、病的反射、クローヌス、筋緊張検査	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。									
8	感覚検査、表在感覚、深部感覚、深部腱反射 <input type="checkbox"/>	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。									
9	ROM 上肢	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。									
10	ROM 下肢	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。									
11	MMT 上肢	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。									
12	MMT 下肢	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。									
13	平衡反応、バランス検査、協調性検査	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。									
14	総括	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。									
15	総括	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。									
[成績評価について]						[特記事項・授業時間外における学習]					
授業内で毎回評価を行い、教員視点で評価等ができていない場合、再度実施。OSCEの成績にて評価する。						授業外での実技練習を積極的に行なうことを推奨する。その際、臨床場면을想定し、実際の患者を演じながら行なうことが望ましい。					

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員		鈴木 広大	
授業科目名	理学療法検査・測定法実習		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

回復期リハビリテーション病院、急性期脳神経外科で実務経験をした理学療法士教員より、リハビリテーションを患者に提供するうえで必要な理学療法評価測定法について講義を行う。理学療法検査測定法で学んだ内容を実際の対象者を想定し、実践できる基本的臨床技能の習得を目的とする。対象者の状態に合わせ、情報収集、検査測定の意義を踏まえた検査項目の抽出を行えること、実際に検査・測定実施を実践することは、統合と解釈、問題点抽出、目標および介入計画の設定の基盤となることを意識して受講してほしい。

〔到達目標〕

- ①共感的態度、傾聴的姿勢として問診、医療面接を実施することができる。
- ②病態に応じた検査・測定項目の抽出、動作を観察した上で仮説を立てることができる。
- ③検査の意義を説明することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

必要に応じて配布する。

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション/評価の進め方、論文の検索と活用	①科目内容を理解する ②評価の進め方を理解する
2	検査項目の目的の確認	1・2年生で学習した検査項目を行う目的を再確認する。
3	検査項目の目的の確認	1・2年生で学習した検査項目を行う目的を再確認する。
4	ケーススタディ① 初期情報から検査項目を挙げる	①模擬患者の各情報を収集することができる ②収集した情報をまとめることができる
5	ケーススタディ① 検査結果から結果の解釈、ICF作成	①ボトムアップの評価を理解する ②検査項目挙げることができる
6	ケーススタディ① 目標設定、治療プログラム立案	①各検査の結果を解釈することができる ②ICFの分類を作成できる
7	ケーススタディ② 初期情報から検査項目を挙げ結果の解釈を行う	①目標を設定することができる ②治療プログラムを立案できる
8	ケーススタディ② ICF作成、目標設定、治療プログラム立案	①ボトムアップの評価を理解する ②検査項目挙げ、検査結果を解釈することができる
9	ケーススタディ③ 初期情報の提示、動作分析	①ICFの分類を作成できる ②目標を設定することができる ③治療プログラムを立案できる
10	ケーススタディ③ 評価項目の抽出、樹形図作成	①トップダウンの評価を理解する ②動作分析し理解することができる
11	ケーススタディ③ ICF作成、目標設定、治療プログラム立案	①検査項目を挙げることができる ②樹形図を作成することができる
12	症例発表の見学	①ICFの分類を作成できる ②目標を設定することができる ③治療プログラムを立案できる
13	介入の流れとしての検査実施方法の確認	検査項目の抽出と実施が出来るようになる
14	介入の流れとしての検査実施方法の確認	検査項目の抽出と実施が出来るようになる
15	介入の流れとしての検査実施方法の確認	検査項目の抽出と実施が出来るようになる

〔成績評価について〕

評価は課題提出で行う。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

前もって理学療法評価・検査について復習してくることで、理学療法プログラムの立案に役立つ。毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリント、資料の配信による授業を行なう。グループワーク、ペアワークでは各自協力し合い、課題を遂行すること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	後期	担当教員 山本 敏之			
授業科目名 理学療法検査・測定法実習	必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

理学療法士として病院、老人保健施設、通所リハビリステーションで勤務した経験を持ち、理学療法を現在も臨床業務で行っている教員が講義、演習を行う。理学療法に関わる評価について実技を主として反復実践する。評価場面における思考の慣れを企図、技術の確実な修得を目指す。また、実技実践のみならず、他学生の実践場면을観察・分析することで、自身の学びとする。

〔到達目標〕

- ① 模擬患者に対して、リスクに配慮した行動をとることができる。
- ② 模擬患者に対して、正確な検査測定を実施することができる。
- ③ 検査結果を報告し、質問に対して自分の考えを述べるることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

教科書：理学療法評価学 第6版 金原出版
 プリント：一年次の理学療法評価概論および二年次の理学療法検査測定法で配布されたもの

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 実技確認	実技実践およびその観察を通し、自身の不足している技術および能力を把握することができる。
2	模擬症例①	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。
3	模擬症例②	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。
4	模擬症例③	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。
5	模擬症例④	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。
6	模擬症例⑤	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。
7	模擬症例⑥	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。
8	模擬症例⑦	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。
9	模擬症例⑧	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。
10	模擬症例⑨	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。
11	模擬症例⑩	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。
12	OSCE振り返り	OSCEの結果を踏まえ今後の目標設定をすることができる。
13	模擬症例⑪	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。
14	模擬症例⑫	模擬患者を想定した検査測定が実施できる。
15	期末試験 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

評価は実技試験＋期末試験で行う。
 試験は合計100点で評価し、60点以上を合格とする。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業後には授業内容を復習すること。
 授業外での実技練習を積極的に行なうことを推奨する。その際、臨床場면을想定し、実際の患者を演じながら行なうことが望ましい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	後期	担当教員 石田 輝也			
授業科目名 運動療法学Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

小児領域に長年携わってきた教員が、現在の小児理学療法について、臨床実践に即した形で講義・実技を行う。本授業では、国家試験において頻出である脳性麻痺を中心に、発達過程の理解や神経発達症を含む各種疾患の概論について幅広く取り扱う。また、子どもへの理学療法介入の実際や、乳幼児への適切な接触・関わり方についても実践的に学ぶ機会とする。小児理学療法においては、目の前の機能改善のみならず、将来的な生活や社会参加を見据えた支援が求められる。そのため、対象児の発達段階や家族背景を踏まえ、「この介入が将来どのような意味を持つのか」を常に意識しながら授業に臨むことを期待する。

〔到達目標〕

本授業を通して、疾患理解と発達理解を基盤とした臨床推論力、および子どもとその家族に対する実践的な関わり方を習得することを目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕

教員が作成及び配布するプリント

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション、正常発達①	10ヶ月までの発達過程を理解し説明できるようになる
2	正常発達②、小テスト	10ヶ月以降の発達過程を理解し説明できるようになる□
3	新生児理学療法、小テスト	新生児理学療法の概略、障害像、及び評価から治療を理解し、説明できるようになる。
4	神経発達症①、小テスト	神経発達症の概略、障害像、及び評価から治療を理解し、説明できるようになる。□
5	神経発達症②、小テスト	神経発達症の概略、障害像、及び評価から治療を理解し、説明できるようになる。□
6	小児特有疾患(神経・筋・整形・遺伝子)、小テスト	小児特有疾患の概略、障害像、及び評価から治療を理解し、説明できるようになる。
7	脳性麻痺①、小テスト	脳性麻痺の概略、障害像、及び評価から治療を理解し、説明できるようになる。
8	中間テスト、解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	脳性麻痺②、小テスト	脳性麻痺の概略、障害像、及び評価から治療を理解し、説明できるようになる。
10	脳性麻痺③、小テスト	脳性麻痺の概略、障害像、及び評価から治療を理解し、説明できるようになる。
11	小児の評価、小テスト	小児の評価方法を理解し、実施できるようになる。
12	小児の理学療法介入、小テスト	小児の理学療法介入方法を理解し、実施できるようになる。
13	重症心身障害児者・小児の補装具、小テスト	重症心身障害児者の概要と小児補装具について理解し、説明できるようになる。
14	グループディスカッションに伴うレポート提出	小児に対する療育支援及び運動療法について理解し、プレゼンテーション及び実施できるようになる。
15	期末テスト、解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

課題レポート 20%(14回目)
 中間試験 40%
 期末試験 40%□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

各回授業にて小テストを実施する(成績評価には含めない)。□

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
運動療法学実習									
〔授業の学習内容と心構え〕 神経難病といわれる中枢神経疾患や神経・筋疾患の変性疾患、脱髄性疾患などの症状と経過、評価法・治療法を習得する。ALS、筋ジストロフィー、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、ギラン・バレー症候群、多発性硬化症等の疾患について学習する。講義学習内で随時行われる問題演習と中間・期末テストで復習出来る授業構成とする。									
〔到達目標〕 神経難病の症状・治療について学び、説明できるようにする。 神経難病の症例などを元に臨床場面でのリハビリテーション評価・治療をイメージできる。									
〔使用教材、参考文献等〕 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学（中山書店）									
回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)							
1	オリエンテーション 神経難病(変性疾患)総論・ALS①+問題演習	変性疾患について概要を学ぶ。ALSの病態、陰性徴候、予後について理解する。							
2	ALS②+問題演習	ALSのリハビリテーションにおける評価方法・治療を理解する。							
3	筋ジストロフィー①+問題演習	ディシェンヌ型筋ジストロフィー、ベッカー型、顔面肩甲上腕型、肢帯型、福山型、遠位型、筋強直性など							
4	筋ジストロフィー②+問題演習	筋ジストロフィー症の評価、治療について理解する。							
5	多発性筋炎・皮膚筋炎	多発性筋炎・皮膚筋炎について病態・症状とリハビリテーションを理解する。							
6	パーキンソン病①+問題演習	錐体外路徴候、大脳基底核の機能、PDの病態・症状について理解する。							
7	パーキンソン病②+問題演習	PD症状各論、症状のメカニズム、逆説動作、PDのリハビリテーション治療、予後、ADL指導について理解する。							
8	中間テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
9	小脳性疾患 脊髄小脳変性症の病態・評価・治療+問題演習	小脳の機能、脊髄小脳変性症の病態と症状を理解する							
10	多系統萎縮症に対する病態・評価・治療+問題演習 小テスト	。オリブ橋小脳萎縮症、線条体黒質変性症、シャイ・ドレーガー症候群について学ぶ							
11	運動失調に対する治療+問題演習	運動失調症状の評価法、理学療法の種類(フレンケル体操等)について理解する。							
12	ギラン・バレー症候群+問題演習	ギラン・バレー症候群の病態、評価、治療について理解する							
13	多発性硬化症の病態・評価・治療+問題演習	多発性硬化症の病態・評価・治療について理解する。							
14	重症筋無力症の病態・評価・治療+問題演習	重症筋無力症の病態・評価・治療について理解する。							
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
〔成績評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項・授業時間外における学習〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 (授業スライド資料は穴埋め記入部分あり。)必要に応じ予め印刷をしたり、タブレット等で記入できるように準備をしておくこと。				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員			松野 竜一郎
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕									
脊髄損傷による四肢麻痺および対麻痺者の、解剖・生理を踏まえ、その症状およびADLを理解し、その病態における理学療法評価および介入技術・知識について包括的に学習する。									
〔到達目標〕									
脊髄損傷者のリハビリテーションについて、その病態を理解し、評価・介入方法について理解を深め、将来臨床において脊損患者の治療の一助とする。また、国家試験問題に対応できるようにする。									
〔使用教材、参考文献等〕									
脊髄損傷リハビリテーションマニュアル(医学書院)									
回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)							
1	はじめに・脊髄について	脊損におけるリハの概要と脊髄について復習する							
2	脊髄解剖・神経症状・レベル・疫学	脊髄解剖・生理を理解し、脊損の特徴を知る							
3	脊髄損傷の症状(完全麻痺と不全麻痺)	脊損の特徴的な症状を理解する							
4	脊髄損傷の自律神経障害・心理学的支援	脊損患者の自律神経障害について理解する							
5	尿路障害	排尿の生理と脊損患者の尿路障害について理解する							
6	合併症	脊髄損傷の合併症について学ぶ							
7	理学療法評価(1)	情報収集、分類法について知る							
8	振り返りと確認テスト	今までのポイントをおさらいし、確認テストをおこなう							
9	理学療法評価(2)	脊髄損傷の評価法について理解する							
10	理学療法評価(3)	評価法について理解し、ADLゴールを知る							
11	急性期の理学療法 (実技)	急性期の理学療法の目的、注意点を学ぶ							
12	回復期の理学療法(1)(実技)	介入方法について実践する							
13	回復期の理学療法(2)(実技)	ROM練習等のやり方を経験する							
14	脊損の基本動作 (実技)	車イス操作や移乗動作など実際にやってみる							
15	期末試験/振り返り	試験にて確認、振り返りを行う							
〔成績評価について〕					〔特記事項・授業時間外における学習〕				
筆記試験にて、確認テスト(中間テスト)3割と小テスト2割、期末試験5割の合計点にて評価する					後半1/3程度は実習にて具体的な訓練方法などを実践する。各評価基準やスケールを覚えるとともに、脊髄解剖(髄節と支配筋や表在覚の関係)について、復習・確認をする。				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	後期	担当教員 松田 輝洋			
授業科目名 疾患別理学療法学Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

臨床歴18年目の理学療法士による授業。呼吸・循環に関する解剖学・生理学的な基本知識を整理し、呼吸循環機能の評価、問題点抽出、治療到達目標設定と運動療法のプログラム作成、リクス管理などについて講義・実習を行う。

[到達目標]

呼吸器系・循環器系に関連する領域の基礎知識を広く理解し、それぞれの疾患に対応した理学療法の評価と治療法の基本を身につける。

[使用教材、参考文献等]

「動画で分かる呼吸リハビリテーション」(中山書店)、「病気がみえる 循環器」(MEDIC MEDIA)、「病気がみえる 呼吸器」(MEDIC MEDIA)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	呼吸器理学療法総論	上気道・下気道の解剖と機能、呼吸運動、血液ガスなどを理解する
2	解剖学・生理学①	肺胞換気式、酸素解離曲線、などを理解する
3	解剖学・生理学②	酸塩基平衡、肺気量などを理解する
4	検査・測定①	視診・触診・聴診・打診・スパイロメーターを理解する
5	検査・測定②	視診・触診・聴診・打診・スパイロメーターを理解する
6	呼吸介助法①	胸郭の動き、体位肺痰法を理解する
7	呼吸介助法②	吸引 人工呼吸器の診かたを理解する
8	中間試験 解説	今までのポイントをおさらいし、確認テストをおこなう
9	運動療法①	Fickの法則・AT・METSなどを理解する
10	運動療法②	karvonenの式・mVO2などを理解する
11	循環器理学療法総論	解剖学・生理学(心臓)を理解する
12	検査・測定①	刺激伝導路・心電図・心機能調節などを理解する
13	検査・測定②	虚血性心疾患・心不全を理解する
14	循環器理学療法総論	解剖学・生理学(血液)を理解する
15	期末試験 解説	試験にて確認、振り返りを行う

[成績評価について]

中間試験50% 期末試験50%で総得点60%以上を合格とする。

[特記事項・授業時間外における学習]

講義では、呼吸器・循環器の解剖・生理をよりよく理解できるように、重要なポイントを解説する。また、それに基づいての検査・測定、運動療法を行う。既に学んでいる解剖・生理から初めて学ぶ運動療法まで幅広いため、必ず授業後に復習をすること。アウトプット出来て初めて復習したこととする。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
疾患別理学療法学実習Ⅱ									
〔授業の学習内容と心構え〕 脳血管障害に対する基本的な理学療法の進め方(一般的評価、理学療法の目的ならびに具体的方法、リスク管理)について学修する。専門科目である解剖学・生理学の神経系の構造と機能等を復習しておくこと。									
〔到達目標〕 脳血管障害の病態・評価・リハビリテーションの実際について学ぶ 脳血管障害後片麻痺患者に対する基本的な運動療法を習得する									
〔使用教材、参考文献等〕 最新理学療法講座 中枢神経系理学療法学									
回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)							
1	中枢系理学療法の基礎的知識	中枢系理学療法の基礎的知識を理解できる							
2	脳損傷の定義および病態	脳損傷の定義および病態を理解できる							
3	運動・感覚の中枢機能と構造 小テスト	運動・感覚の中枢機能と構造を理解できる							
4	脳損傷とその回復過程	脳損傷とその回復過程を理解できる							
5	脳血管障害における医学的管理	脳血管障害における医学的管理を理解できる							
6	脳卒中に対するリハビリテーションの流れ、片麻痺患者の運動障害の特徴 小テスト	脳卒中に対するリハビリテーションの流れと片麻痺患者の運動障害の特徴を理解できる							
7	片麻痺に対する評価方法(1) impairment	片麻痺に対する評価方法を理解できる							
8	片麻痺に対する評価方法 実習	片麻痺に対する評価方法を身に付ける							
9	片麻痺に対する評価方法(2) activity limitation 小テスト	片麻痺に対する評価方法を理解できる							
10	片麻痺患者に対する運動療法(1)課題指向型	片麻痺患者に対する運動療法(1)課題指向型を理解できる							
11	片麻痺患者に対する運動療法(2)座位・立位 実習	片麻痺患者に対する運動療法(2)座位・立位を理解できる							
12	片麻痺患者に対する運動療法(3)歩行 小テスト	片麻痺患者に対する運動療法(3)歩行を理解できる							
13	第1-12回まとめ	第1-12回まとめ							
14	期末テスト	期末テスト							
15	テスト返却及びテスト振り返り、神経系リハビリテーション最前線	テスト返却及びテスト振り返り、神経系リハビリテーションの最前線を知る							
〔成績評価について〕 合格基準は学校基準に準ずる レポート30点/小テスト40点/期末テスト30点					〔特記事項・授業時間外における学習〕 準備学習1時間(シラバスに従ってテキストを読んでおく) 時間外学習1時間(ノートまとめ)				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員			室井 大佑
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 神経障害を生じる代表的疾患に対する基本的な理学療法の進め方(一般的評価、理学療法の目的ならびに具体的方法、リスク管理)について学修する。専門科目である解剖学・生理学の神経系の構造と機能等を復習しておくこと。									
〔到達目標〕 小脳・脳幹障害の病態・評価・リハビリテーションの実際について学ぶ 脳血管障害後の合併症、高次脳機能障害について学び、ICFに基づいた臨床推論、プログラムの立案ができる。									
〔使用教材、参考文献等〕 最新理学療法講座 中枢神経系理学療法学									
回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)							
1	片麻痺患者に対する予後予測	片麻痺患者に対する予後予測を理解できる							
2	脳血管障害の上肢機能と合併症	脳血管障害の上肢機能と合併症を理解できる							
3	脳血管障害の合併症(嚥下、栄養障害) 小テスト	脳血管障害の合併症を理解できる							
4	高次脳機能障害に対する理学療法	高次脳機能障害に対する理学療法を理解できる							
5	高次脳機能障害に対する理学療法の実践 実習	高次脳機能障害に対する症例検討を理解できる							
6	脳の構造・機能(小脳、脳幹)、運動失調の病態 小テスト	脳の構造・機能(小脳、脳幹)、運動失調の病態を理解できる							
7	運動失調に対する評価とプログラムの実際 実習	運動失調に対する評価とプログラムを身に付ける							
8	小脳障害症例に対する症例検討 グループワーク	小脳障害に対するICF、プログラム立案ができる							
9	頭部外傷・脳腫瘍の病態 小テスト	頭部外傷・脳腫瘍の病態を理解する							
10	頭部外傷・脳腫瘍のリハビリテーション	片麻痺患者に対する運動療法を身に付ける							
11	脳卒中治療ガイドライン	脳卒中治療ガイドラインを理解できる							
12	認知神経科学にも基づくリハビリテーション 小テスト	認知神経科学に基づき理学療法を理解する							
13	第1-12回まとめ	第1-12回まとめ							
14	期末テスト	期末テスト							
15	テスト返却及びテスト振り返り、神経系理学療法の現状と未来	テスト返却及びテスト振り返り、神経系理学療法の現状と未来を知る							
〔成績評価について〕 合格基準は学校基準に準ずる レポート30点/小テスト40点/期末テスト30点					〔特記事項・授業時間外における学習〕 準備学習1時間(シラバスに従ってテキストを読んでおく) 時間外学習1時間(ノートまとめ)				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			山本 真秀
授業科目名	義肢装具学実習		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕</p> <p>義肢装具学実習では理学療法士が臨床で扱うことが多い「短下肢装具」について学ぶ。理学療法士として最も必要な「動作分析」、特に「歩行分析」について再度復習し、短下肢装具の適応について実際の動画から学習する。理学療法士として最も難しいといえる装具処方について、就職後の臨床において少しでもヒントになればと考える。</p>										
<p>〔到達目標〕</p> <p>1: 歩行分析ができる 2: 義肢装具、特に短下肢装具について意義・目的・種類・臨床応用について理解する。</p>										
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>義肢装具学テキスト(南江堂)</p>										
回	〔授業単元〕		到達目標(できるようになること)							
1	授業オリエンテーション 装具総論		装具の概略を説明できる							
2	歩行分析Ⅰ		歩行分析について理解する							
3	歩行分析Ⅱ		歩行分析について理解する							
4	歩行分析Ⅲ		歩行分析について理解する							
5	装具の臨床応用Ⅰ		短下肢装具の処方について、実際の臨床場面での動画から学ぶ							
6	装具の臨床応用Ⅱ		短下肢装具の処方について、実際の臨床場面での動画から学ぶ							
7	確認テスト		臨床での動画から歩行分析する							
8	装具の臨床応用Ⅲ		中間テストで出題した動画について再学習する							
9	上肢・体幹装具について		上肢・体幹装具について学ぶ							
10	短下肢装具 <基礎編>		歩行のバイオメカニクス、短下肢装具の特性について再学習する							
11	短下肢装具 <特徴編>		短下肢装具のなかで臨床で処方されることの多い装具について学習する							
12	短下肢装具 <臨床編>		短下肢装具の臨床での処方手順や時期、臨床上で難渋することなど具体的内容を学ぶ							
13	装具の臨床応用Ⅳ		短下肢装具について学習したことを臨床場面の動画から確認する							
14	最終テスト		装具について知識の最終確認テストを実施する。							
15	義肢装具まとめ		テストの回答および義肢装具についてまとめる							
〔成績評価について〕						〔特記事項・授業時間外における学習〕				
<p>評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>						<p>歩行分析ができなければ装具処方はできない。そのためには日々の「訓練」である。暇があれば歩行分析してみたい。 前半は資料はなく実技、動画での分析のみ。歩行分析を確認テストとする。後半は資料を配布し、それに準じて講義する。期末テストは資料からのみ出題する予定である。</p>				

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	前期	担当教員				
授業科目名					木梨 将宏 先生				
日常生活動作学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	

[授業の学習内容と心構え]

- ・回復期リハビリ院にて、在宅復帰に向けたADLの向上に取り組む理学療法士として日々従事している。
- ・今まで学んできた運動学や日常生活動作学の知識を発展させ、実際の日常生活動作の問題を評価・治療につなげられることを目標とする。
- ・実技と他者への説明に時間を多き、学んだ知識の理解と整理に努めてもらう取り組みを重視する。

[到達目標]

- ・動作観察および動作分析の説明および解釈が行えることを目標とする。
- ・疾患別における日常生活動作の問題について、理解・説明できることを目標とする。
- ・日常生活動作における理学療法評価の習得を目標とする。

[使用教材、参考文献等]

日常生活動作学の教科書
Teamsで提示する配布資料

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	ADLの概念	ADLの概念、ICIDHとICF、QOLの用語の説明ができる。
2	ADLの運動学的分析①	静力学、運動力学の用語が説明ができる。
3	ADLの運動学的分析②	運動力学的分析について説明ができる。
4	基本動作の運動学的分析(寝返り)	寝返りの運動学的分析が説明できる。
5	基本動作の運動学的分析(起き上がり)	起き上がりの運動学的分析が説明できる。
6	基本動作の運動学的分析(立ち上がり)	立ち上がりの運動学的分析が説明できる。
7	中間試験	第1～6回の内容を、Teamsを用いた試験により効果判定を行い、理解度を深める。
8	ADLを支援する機器(歩行補助具)	各歩行補助具の特徴について説明ができる。
9	ADLを支援する機器(歩行補助具)②	各歩行補助具を用いた介助ができる。
10	筋骨格系障害に対するADL能力低下	筋骨格系障害に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。
11	関節リウマチに対するADL能力低下	関節リウマチに対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。
12	股関節術後に対するADL能力低下	股関節術後に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。
13	膝関節術後に対するADL能力低下	膝関節術後に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。
14	股関節・膝関節の術後の歩行能力低下	股関節・膝関節術後の歩行能力低下の要因とその対策について説明ができる。
15	期末試験	第8～14回の内容を、Teamsを用いた試験により効果判定を行い、理解度を深める。

[成績評価について]

- ・中間試験(計40点)、期末試験(計40点)、毎回の小テスト(計20点)の3合計100点で評価する。
- ・評価方式はTeamsを用いた試験とする。

[特記事項・授業時間外における学習]

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	後期	担当教員				
授業科目名					水梨 将宏				
日常生活活動学実習	必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

[授業の学習内容と心構え]

回復期リハビリ病院にて、在宅復帰に向けたADLの向上に取り組む理学療法士として日々従事している。今まで学んできた運動学や日常生活動作学の知識を発展させ、実際の日常生活動作の問題を評価・治療につなげられることを目標とする。評価実習前にもなるため、発言の場を設けることで、学んできたことを表出する取り組みを重視する。

[到達目標]

動作観察および動作分析の説明および解釈が行えることを目標とする。
疾患別における日常生活動作の問題について、理解・説明できることを目標とする。
日常生活動作における理学療法評価の習得を目標とする。

[使用教材、参考文献等]

日常生活動作学の教科書
Teamsで提示する配布資料

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	脳卒中片麻痺のADL(急性期)	脳卒中片麻痺の急性期の対応について説明できる。
2	脳卒中片麻痺のADL(回復期)①	脳卒中片麻痺の回復期の対応について説明できる。
3	脳卒中片麻痺のADL(回復期)②	脳卒中片麻痺の回復期の対応について説明できる。
4	脳卒中片麻痺のADL(維持期)	脳卒中片麻痺の維持期の対応について説明できる。
5	パーキンソン病患者のADL ①	パーキンソン病患者の動作障害について説明できる。
6	パーキンソン病患者のADL ②	パーキンソン病患者の動作障害を動画を通して、動作分析を説明できる。
7	中間試験 解説	第1～6回の内容を、筆記試験により効果判定を行い、理解度を深める。
8	正常歩行の理解 ①	歩行周期の理解。
9	正常歩行の理解 ②	重心移動制御の理解。
10	正常歩行の理解 ③	歩行検査の理解。
11	日常生活動作の理学療法検査の理解①	様々なADL評価の特徴を理解する。
12	日常生活動作の理学療法検査の理解②	FIMの評価について理解する。1)
13	日常生活動作の理学療法検査の理解③	FIMの評価について理解する。2)
14	日常生活動作の理学療法検査の理解④	FIMの評価について理解する。3)
15	期末テスト 解説	第8～14回の内容を、筆記試験により効果判定を行い、理解度を深める。

[成績評価について]

毎回の小テスト(計20点)、中間試験(計40点)、期末試験(計40点)の3つの合計100点で評価する。
評価方式はTeamsを用いた試験とする。

[特記事項・授業時間外における学習]

小テストを授業終了後に各自で振り返りとして実施をする。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年 3	開講区分 後期	担当教員 山本 敏之			
授業科目名 地域理学療法学	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 15(1)	授業回数 8		

〔授業の学習内容と心構え〕

生活期の病院や施設にて実務経験の有する理学療法士の教員が授業を実施する。
 ①制度内での理学療法業務を理解し、実践する、②地域リハビリテーションの概要を理解する、③地域リハビリテーションに関わる教員の経験から制度上の役割を学ぶ

〔到達目標〕

- ・地域包括ケアシステムについて理解できる
- ・地域における生活支援に対する理学療法が提供できる
- ・地域の状況、地域理学療法の対象者を理解できる

〔使用教材、参考文献等〕

地域リハビリテーション学(羊土社)
 地域理学療法学(南江堂)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	地域理学療法の概論	地域リハビリテーション領域での理学療法士の役割を理解する
2	地域に関わる理学療法士について	学校周辺の地域医療・福祉の特性を把握し、地域の状況を理解することができる
3	地域に関わる理学療法士について	学校周辺の地域医療・福祉の特性を把握し、地域の状況を理解することができる
4	地域支援事業、介護サービスの特徴	地域支援事業、介護サービス下にて理学療法士が対象とする利用者様を理解する
5	訪問・通所理学療法	訪問・通所理学療法内での理学療法の役割を理解する
6	入所理学療法	入所理学療法での理学療法士の役割を理解する
7	地域支援事業中での理学療法士の役割 介護保険サービス下での理学療法士の役割	地域支援事業中でのPTの役割を理解する 介護保険下での理学療法士の役割を理解する
8	終末期の理学療法	終末期の理学療法での役割を理解する
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔成績評価について〕

グループワークをレポート課題とする。
 計4回実施を予定している。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業後には授業内容を復習すること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員	
授業科目名	生活環境論		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)
							授業回数	15
							佐藤 俊生	

〔授業の学習内容と心構え〕

外来での理学療法に従事していた理学療法士が授業を行う。日常生活に関わる環境因子を学習し、環境改善の手法を理解する。また、歩行補助具、福祉機器に関わる知識や利用方法を解説するとともに実習を行う。理学療法士がどのように生活環境に関わるかを説明し、対象者の生活改善に役立てる。

〔到達目標〕

日常生活活動と生活環境の関係を理解し、対象者の生活を向上するための提案ができる。

〔使用教材、参考文献等〕

「日常生活活動学・生活環境論 第6版」(医学書院)
 「福祉住環境コーディネーター2級テキスト」(東京商工会議所)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション、生活環境論とは	生活環境論の概念を説明できる。
2	生活環境と考慮したい概念	ICIDH、ICF、ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインなどの概念を説明できる。
3	地域環境と公共交通	地域環境や公共共通における生活上の課題を予測できる。
4	生活環境の評価、介護保険と住環境整備	生活環境の評価について時期別の評価内容を説明できる。
5	住環境における基本的な改善手法1 空間への配慮 校舎内の採寸(ワークシート提出)	手すりの取り付けなど共通的に行う改修についてと介護保険における住宅改修について説明できる。
6	住環境における基本的な改善手法2 共通的な工事 生活行為別の環境整備1 外出(玄関周辺)	校舎内部の寸法を測定し、空間への配慮について説明できる。
7	生活行為別の環境整備2 外出(敷地内から敷地外へ) 生活行為別の環境整備3 屋内の階段	敷地内から敷地外へ移動する際に必要な改修についてと屋内の階段について説明できる。
8	中間試験、解説 前半の振り返り	ここまで扱った内容を説明できる。
9	歩行補助具、車椅子について	歩行補助具、車椅子の特徴を説明できる。
10	体験(杖・車椅子の利用、介助)	歩行補助具を使用した歩行や、車椅子の介助ができる。
11	生活行為別の環境整備4 排泄	排泄行為に必要な要素と改修について説明できる。
12	生活行為別の環境整備5 入浴	入浴行為に必要な要素と改修について説明できる。
13	福祉用具について	福祉用具について説明できる
14	改修プラン立案	改修プランについてグループ検討を通じて意見を述べるができる。
15	期末試験 振り返り	ここまで扱った内容を説明できる。

〔成績評価について〕

ワークシート提出 10%
 レポート提出 30%
 中間試験 30%
 期末試験 30%
 学則に準じて評価を行う。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

対象者の生活に対する環境面の影響を理解するために、授業で取り扱う内容について自分の身近な環境の観察や考察を行うこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部	学年	3	開講区分	後期	担当教員 田中 信一			
授業科目名 評価実習前教育	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

協同学習を通じて、これまでの授業で得た知識を臨床に生かせるよう構築するとともに、臨床推論技能を発達させる。自ら考え、問題を解決する力を身につける。臨床現場において対象者に効果的な理学療法を提供できる基盤となることを意識して受講してほしい。理学療法士として医療・介護施設に勤務している教員が実務経験に基づいて理学療法士養成に向けた授業を展開する。

〔到達目標〕

①疾患・病態や評価について分からない部分を自分で調べ、解決策の足掛かりを得ることができる。②問題解決のための仮説、検査項目の抽出を行うことができる。③症例の全体像を把握しICFの表を作成することができる。④臨床的思考、問題点抽出、目標設定、治療計画立案について説明することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト 羊土社

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 評価実習概要	実習の流れについて理解できる。
2	症例報告の構成 情報収集	症例報告の構成、情報収集について説明できる。
3	臨床思考過程:症例報告見学	症例報告を見学し、発表の内容を理解し、疑問をもつことができる。
4	統合と解釈 問題点抽出と関連図	ケーススタディーを通して、臨床思考の過程の流れを追究することができる。
5	統合と解釈 問題点抽出と関連図	ケーススタディーを通して、臨床思考の過程の流れを追究することができる。
6	統合と解釈 問題点抽出と関連図	ケーススタディーを通して、臨床思考の過程の流れを追究することができる。
7	統合と解釈 問題点抽出と関連図	ケーススタディーを通して、臨床思考の過程の流れを追究することができる。
8	ケーススタディ	問題点抽出、目標設定、治療プログラムを説明することができる。
9	実習に向けた目標設定 実習施設の特徴と周辺地域の特徴	実習に向けた目標をたてることできる。自身の実習地の特徴、周辺地域の特徴について説明ができる。
10	ケーススタディ	問題点抽出、目標設定、治療プログラムを説明することができる。
11	ケーススタディ	問題点抽出、目標設定、治療プログラムを説明することができる。
12	ケーススタディ	問題点抽出、目標設定、治療プログラムを説明することができる。
13	ケーススタディ	問題点抽出、目標設定、治療プログラムを説明することができる。
14	経過記録の書き方、デイリーノートの記載方法	経過記録、デイリーノートについて説明することができる。
15	知識確認試験(CBT)	実習に関わる基本的な知識を答えることができる。

〔成績評価について〕

評価実習全体の成績より成績判定。
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項についてはメモをとること。
疑問点は担当教員にアドバイスをもらうこと。